



みどりの風吹くまち

練馬区

面積48.08km²
 世帯数382,980世帯
 人口738,131人
 (うち外国人).....18,567人
 予算2,912億円
 職員数4,418人

歴史・見所・名所

「練馬」という地名の由来については、関東ローム層の赤土をねったところをねり場といったことなど諸説がありますが、いずれも定説にはなっていません。

江戸時代、練馬の地域は都心部へ野菜を供給する一大近郊農村でした。関東大震災以降の急激な人口増加によって市街地化が著しくなったため、区独立の機運が高まり、激しい運動が展開されました。東京の区制の変遷を経る中での紆余曲折ののち、そうした運動の成果が実って昭和22(1947)年8月1日に板橋区から分離・独立し、特別区の中で一番新しい23番目の区として誕生しました。

練馬区は、23区の中では、今なお武蔵野の面影を残すみどり豊かな自然が多く見られ、国の天然記念物に指定されている沼沢植物群落のある石神井公園や広大な敷地を有する光が丘公園などの都立公園、不思議な動物たちの彫刻群がお出迎える美術の森緑地、バラの香りを楽しめる四季の香ローズガーデン、練馬発祥の農業体験農園、カジュアルに農とふれあえる練馬果樹あるファーム、23区唯一の大規模なカタクリ群生地である清水山の森など、まちに潤いを与えるみどりのネットワークが形成され、市民生活と融合した農業が営まれている住環境と言えます。

概要

練馬区は、23区の北西部に位置し、東西約10km、南北約4~7km、面積48.08km²で23区の中では5番目の面積を有しており、ほぼ長方形をしたほとんど高低差のないならかな台地状の地形をしています。人口は、約73万8千人で、23区中2番目の人口規模になっています。

大都市東京の都心近くに立地しながら、豊かなみどりが残る、自然と都市が融合したまちです。雑木林の湧水池などの水辺空間や武蔵野の面影が残る貴重な自然など、都心部では味わえない数多くの魅力があります。区では、こうした練馬区ならではの魅力あるみどりを未来に残していくために、貴重なみどりを地域で守る区民協働の取組みを進めています。

一方、区内には西武池袋線、西武新宿線、東武東上線、東京メトロ有楽町線、都営大江戸線などの運行に加えて、東京メトロ副都心線の乗り入れ、さらに、西武池袋線が東京メトロ副都心線を経由して東急東横線、横浜高速みどり線との相互直通運転を開始するなど、近年の交通網の整備により、都心などへのアクセスも飛躍的に向上しています。

このように練馬区は、みどりの豊かさと都市生活の利便性が両立した多様性のある住宅都市として発展を続けています。

主要課題・将来展望

平成30(2018)年6月に、目指す将来像を区民と共有し、区政をさら



石神井の森を背景に、幻想的な雰囲気の中で開催している「みどりの風 練馬薪能」



地元の採れたて新鮮野菜や練馬産野菜を使った加工品などの即売会「ねりマルシェ」



住宅街の中に農地や昔ながらの屋敷林が点在する高松一・二・三丁目「農の風景育成地区」に区が開園する畑を中心とした区立施設『(仮称)農の風景公園』(令和5(2023)年3月開園)

前に進めるため、「暮らし」「都市」「区民参加と協働」の3つの分野からなる「グランドデザイン構想」を策定しました。そこで示された将来像の実現に向け、区の新たな総合計画として、平成31(2019)年3月に「第2次みどりの風吹くまちビジョン」を策定しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、経済・財政状況など、区政を取り巻く環境は大きく変化し、非対面・非接触の生活、デジタル化の加速など、区民生活にも大きな影響を及ぼしています。コロナ禍においても、第2次ビジョンに定める基本理念や区の目指す姿は大きく変わるものではありませんが、社会情勢の変化を踏まえた見直しが必要となりました。引き続き、区民生活を支える上で必要な施策を充実するとともに、この間に生じた新たな課題に対応するため、令和4(2022)年度から令和5(2023)年度までの2か年の取組みを定める「第2次みどりの風吹くまちビジョン 改定アクションプラン」を令和4(2022)年3月に策定しました。「第2次みどりの風吹くまちビジョン 改定アクションプラン」に示された6つの施策の柱は以下のとおりです。

(1) 子どもたちの笑顔輝くまち

多様化する子育てサービスのニーズに応える施策を展開することで、子育てのかたちを選択できる社会を実現します。

(2) 高齢者が住みなれた地域で暮らせるまち

介護保険施設等の整備や医療と介護が連携した在宅療養ネットワークの構築に取り組むとともに、高齢者一人ひとりに合ったサービスを提供することで、住みなれた地域での暮らしを支えます。

(3) 安心を支える福祉と医療のまち

誰もが安心して暮らせ、未来に希望をもって生活できるまちの実現を目指し、福祉・医療サービスを一層充実させます。

(4) 安全・快適、みどりあふれるまち

安全で快適な、みどりあふれるまちの実現を目指し、区民と手を携えながら積極的に取り組んでいきます。

(5) いきいきと心豊かに暮らせるまち

中小企業支援、商店街振興、都市農業振興、文化芸術、スポーツ振興など、区民が暮らしに潤いや幸せを感じる、魅力あふれるまちを目指して取組みを進めます。

(6) 区民とともに区政を進める

区政を「参加と協働」から「参加から協働へ」と深化させ、練馬ならではの住民自治を創造していきます。多様化する区民のニーズにこたえ、必要な行政サービスを確保するため、区のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、区民サービスの質の向上と更なる業務の効率化を実現します。

○他自治体との連携について

練馬区は、長野県上田市と友好都市提携を結んでいます。昭和55(1980)年、区立少年自然の家を当時の武石村(現上田市)に開設したことを契機に交流が始まりました。平成25(2013)年には、災害時における相互応援に関する協定を結び、令和元(2019)年10月の台風第19号で被害を受けた上田市に職員を派遣するなど連携を進めています。今後も、上田城跡公園をはじめとした観光地や特産品など、上田市の魅力を練馬区民に紹介する取組みを通して、両区市のにぎわいと発展につながる交流を進めていきます。



バラの香りや色など五感で楽しめる「四季の香ローズガーデン」



練馬の特色であるみどりを地域の財産として育むために区民とともに進めている「憩いの森の区民管理」



みどり豊かな環境の中で、思う存分スポーツが楽しめるよう、拡張し、新たなスポーツ施設を整備する「石神井松の風文化公園」



既存の医療機能の拡充に加え、回復期機能を整備し、新たに令和4(2022)年10月に移転・開院した「練馬光が丘病院」